ふるさとへの思いは消さない

～消防団がつなぐ地域コミュニティ～

1月5日。この日はすべての消防関係者が決意を新たにする日。「無火災」を、そして「自分たちの地域は自分たちで守る」ということを…。

今回の「つしまさいこう」は、ふるさとを思い、それぞれの地域で消防活動に奮闘する皆さんにお話を聞きました。

一番最初に現場に着くのは俺たち消防団だ

長瀬　憲二さん
厳原第21分団（下原、樫根、日掛）
消防部長

大阪からUターンして7年目になります。特に佐須川が増水した時の土嚢積み作業が印象に残っていますね。消防団員としていつも心に置いているのは、消防署から距離のある佐須地区で火事が起こったとき「一番最初に現場に着くのは俺たち消防団だ」ということですね。初期消火はやはり自分たちが頑張らねばと思っています。分団の課題としては、地区外への勤め人が多いので特に昼間の火災が怖いですね。

昨年の9月、厳原第21分団員12名は、東日本大震災での大津波によって被害を受けた宮城県石巻市へ2泊3日でボランティアに行ってきました。費用は自前。現地では、側溝の土砂上げなどを行ってきました。この震災では、消防団員が250名もお亡くなりになったと聞きました。現場を目の当たりにした時、「消防団員としての任務を遂行するため､最後までここに残っていたんだろうなあ」という思いがこみ上げてきました。

佐須地区には「佐須響心会」という地域おこしグループが出来たんですが、「消防団員＝響心会のメンバー」という感じです。消防団の「絆」を活かし、蒙古太鼓や空き缶拾い、ロードレースの炊き出しなど活動の幅をひろげていて、相乗効果で消防団の結束にもつながっています。先輩達が築いてきたものを継承しながら新しいことにも取り組んでいます。

自分の家から火事を出さない！

江嶋　慶子さん
雞知地区婦人消防隊　隊長

婦人消防隊に参加して9年になります。20年ほど前に、近所で火災がありました。すぐに裸足でとんでいき、集まった女性たちみんなで家財道具を出してあげようと必死になりました。その出来事を思い出し、何か女性にも出来ることがあるのではと考えるようになったのがきっかけですね。現在、婦人消防隊は豆酘地区と雞知地区にあり、隊員は約270名です。年令は20代から60代、主婦だけではなく独身の方もいらっしゃいます。

婦人消防隊が目指すものは､「自分の家から火事を出さない！」ということ。男性の消防団の皆さんのような活動はできませんが、年に一度は操法の訓練もやっています。

街頭では、環境浄化で話題の「EM」を入れた容器に「火の用心」や「火災警報器設置」のラベルを貼り、主婦のみなさんに配布しています。台所の汚れも火災の原因になりますから、そのお掃除にEMを活用してもらうんです。

火災警報器設置の推進にも力をいれています。その方法として、一人暮らしのお年寄りの食事サービスに参加して、楽しい会話の中で「火災警報器をつけていますか？」などと話題にします。声をかけた方々は、みんな設置して下さいます。

とはいっても、婦人消防隊についてはまだまだ知らない方が多いのが現状。女性ならではの視点で工夫したり手立てを考えて、婦人消防隊のPRや隊員増加につなげ、皆さんと協力して、この町を守っていきたいですね。

消防団が来てくれるという安心感

岡崎　秀人さん
上県第1分団(佐須奈)　団員

5年前に出身地の北九州から妻の実家である対馬に移ってきました。向こうに住んでいる時は消防業務には全く縁の無い生活で、ましてや消防車に乗るなんていうのは思いもしていませんでした。

消防団に入ったのは、近所に住む分団長さんに誘われたから。当時の私は知り合いも少なかったものですから、地域の皆さんと知り合えたことが一番良かったですね。今では地域の地理や家庭環境をほぼ把握しています。

火事はもちろんのこと、増水の時の土嚢積みや、行方不明者の捜索にも消防団は出動します。例えば、川の水がどんどん上がってきても一人では何もできないですもんね。自分を住民の立場に置きかえたら、「消防団が来てくれるという安心感」があると思います。

佐須奈地区は、以前大火事で大変な被害を受け、その反省から地区のあちらこちらに消火栓が設置されています。私たちの分団では、年1回、住民の皆さんと消火栓の使用訓練を行っています。消防団だけが使い方を知っていても意味がありませんから。

消防活動で心配なのは、仕事の都合などで団員が常時地域にいるわけではないということ。いろんな事情で、所属している地域と実際に住んでいる地域が違う団員も珍しくありません。すぐに駆けつけられる団員の数はどの地域も減っていると思います。

入団して日は浅いですが、自分が出来ることからコツコツやっていきたいと思います。

一致団結して対馬を守る

現在、対馬市消防団は95分団：1,688名（平成23年4月時点）の団員で構成されています。消防団の力は「地域に一番詳しい」こと。そして「動員力があり、即時に対応できる」ということではないかと思います。

また最近は、わずかな対馬滞在期間にも関わらず、転勤族の皆さんの中にも消防団に入ってくださる方もいらっしゃいます。消防団に入ることで地域を知ってもらい、初期消火に協力していただけたらと願います。

団員の減少と高齢化は対馬に限らず、全国の消防団の悩みです。応援分団や応援協定などもありますが、幹部会では対策委員会を立ち上げ、この問題の解決策を模索しているところです。近隣の分団を統合して、100人規模の分団にできればとも考え、「一致団結して対馬を守る」という意識づくり、組織づくりを目指しています。

宮﨑　義則さん
対馬市消防団　団長

市民の皆さんにお願いしたいことは、何といっても「火事を起こさないようにしてください」の一言に尽きます。安易な気持ちで行った「ゴミ焼き」や「野焼き」が火事の原因になって招集がかかったものの、数分で鎮火したという事例があります。いかなることがあろうとも、サイレンが鳴れば消防団員は仕事を犠牲にして現場に駆けつけなければなりません。そのようなことも理解していただき、十分に火の元の注意をお願いいたします。

私たちの命と財産を一番身近で見守ってくれている消防団。その力はこれまでもこれからも地域にとって欠かすことができない大きな存在です。時には自分や家庭を犠牲にしながら…、時には命の危険と隣り合わせの中で…、それでも地域社会のために尽くす精神を、私たちは忘れてはなりません。

ひとりはみんなのために　みんなはひとりのために

自分一人だけでは幸せになれない。周囲の幸せが自分の幸せにつながる。東日本大震災を目の当たりにした私たちは、周囲に支えられて自分が生かされていることに気付き、あらためて地域コミュニティの大切さに直面しています。

踏み出すきっかけはすぐそこにあります。一人ひとりができることを結集し、みんなが安心して命をつないでいける「対馬」の未来を築いていきましょう。

問い合わせ　消防本部　総務課　☎0920(52)9092